

私達は、家族や親しい方を亡くした時、「まさか、そんなはずでは・・・。」と思い、自分の力ではなにも出来ない事を知り、ただただ見送る事しか出来ません。

人が今まさに亡くなるという時に、私達は何もしてあげられない・・・。

悲しい事ではありますが、それが現実です。

しかし、亡くなられた方に対してできる事があります。それが『お葬式』です。このお葬式を心を込めて丁寧^{ていねい}に行う事が、残された私達にできる唯一^{ゆいいつ}の事なのです。

亡き方を思う心がどんなに強くても、その心は表^{おもて}にあらわす事が出来ません。

そのあらわしようのない心を儀式という形あるものに託^{たく}し、あらわして行なう事が、お通夜^{つや}であり、お葬式なのです。

お経を唱え、香をたき、お水やお茶を供え、お灯^{とうみょう}明^{とも}を灯し、花で飾り、お膳を供え、ご供養をします。

そして、お釈迦さまの教えに導かれて、仏様となるのです。

故人が安らかに見守って下さるようにと、私達は祈るのです。

私達は普段生活をしていると、この時がずっと続いていくものと思ってしまいます。しかし、お釈迦さまは、

「この世の中に永遠に続くものは何もない、

出会った者は必ず別れなければならない。」と示されています。

『無常^{むじょう}』の世の中を、私達は生きているのです。

その無常を一番強く感じる事ができるのがお葬式なのではないでしょうか？

私達は故人の死によって、何時^{いつ}の日かこの世に別れを告げなければならない事に気付かされるのです。

しかし、故人は亡くなっても私達の心の中に生きています。

故人の人生を私達の生きる力として、心の中に留^{とど}めておきたいと思うのです。それが故人に対する供養となり、無常の世の中を生きる私達の大きな導^{みちび}きとなるのです。

お葬式とは、亡き方を大切にお送りする儀式であり、私達に大切な事を気付かせてくれる時間でもあるのです。